

TEL 233 340 000
FAX 224 313 684
Email Jschoool@volny.cz

VLTAVA

学校教育目標

「自ら学び 共に学ぶ 豊かな心と国際性あふれる たくましい児童生徒の育成」

目指す子ども像

「かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子」

2学期の3つの出会い

校長 齊藤 仁

(12月18日終業式での話)

おはようございます。今日は2学期の終業式、そして2015年平成27年の学校で過ごす最後の日です。いつも終わりの日は、始まりの日の話をします。始まりと終わりがきちんとあれば、その間には物語が生まれると思うからです。

入学式、始業式、そして1学期の終業式で話した『3つの出会い』を覚えていますか。一つ目の出会いは、学校の中での友達や先生との出会いです。2学期は修学旅行や学習発表会などたくさんの行事やいろいろな活動がありました。その中で、新たな出会いがあったのではありませんか。例えば、いっしょにいるクラス人でも、その人の全く違う一面に出会ったことはありませんか。また、力を合わせて何かに取り組んでいるときに仲間と気持ちが一つになったことはありませんでしたか。互いに競い合って、あるいは高めあって、すごい充実感を持ったことはありませんでしたか。仲間との活動の中で、自分たちのクラスや学校を誇らしいと思った人はいませんか。人は一人では自らを磨くことはできません。人との出会いの中で、成長したという実感を大切にしてくださいね。

二つ目の出会いは、チェコとの出会いです。プラハでのウォークラリー、社会科見学、チェコの学校との交流、つい最近ではクリスマスマーケット見学やチェコの学校の先生に教わることもありました。2学期の始業式で、チェコの人々と、日本の歴史の中で生きてきた私たちとは考え方や感じ方が違うことがあり一見違うように見えても、実は根っここの部分では同じだという話をしました。でも、やはりチェコとの出会いでは、違いから学んだり気づくことが多かったと思います。「日本ではなぜお正月が6日間も会社や役所が閉まるのか」「どうして、12月31日が1月1日になることがそんなに大切なのか」とチェコの人に聞かれました。私は、年が改まるというのは日本人にはとても大切な感覚なのです、と答えました。日本語では、よく「けじめ」とか「区

切り」と言います。これまでのつらいことやよくなかったことをあらためて、新たな気持ちでこれから始まる1年を迎えるという感覚です。こちらでは入学式を行う学校は少ないようですが、これも同じようなことだと説明しました。日本では、始めと終わりが大切なんです。説明していて、チェコという国との出会いが日本という国について自分が学ぶ、あるいは考え直すきっかけになるんだと思いました。長いお休みになりますが、ぜひプラハの街をもう一度探索してください。建物や銅像、記念碑などについて知ること、日本という国を見直すきっかけにもなると思います。教室の正面に貼ってある学校教育目標の最後に「世界で生きる子」というのがあります。世界で生きるということは、実は日本を知り、チェコを知り、この二つの国を愛するという事ではないでしょうか。

最後の出会いは、自分との出会いです。たぶん、2学期の勉強や生活を通して、みんなは成長の実感があった人もいれば、今一つ自分に満足していない人もいるかもしれません。でも、どちらも自分との出会いなんです。できる自分とできない自分、頑張る自分と頑張らない自分、どちらも自分です。自分の良さや可能性に自信を持ってください。そして、ここでもお正月は大きな意味があります。新しく始まる平成28年は、「こんな自分をめざすんだ」という新年の抱負を考えてください。ではメリークリスマス、そしてよいお年を！



転出のお知らせ

小学部2年	御手洗	さん
小学部2年	渡邊	さん
小学部5年	御手洗	さん
中学部2年	御手洗	さん